

祥福園 はばたきユニット

声かけや見守りを工夫することで、安心して移乗の動作に取り組む様子が確認された。

さらに、デモ機器を2回に分けて導入したことで、初回導入時には消極的であった職員も、利用者の反応や支援の変化を共有する中で理解を深め、2回目の導入時には積極的に活用する様子がみられた。

【課題】

*福祉用具の活用場面における課題

立位保持が困難な利用者や、上肢機能の低下によりハンドルを握ることが難しい利用者に対しては、今回導入された手動型の簡易移乗リフトの使用が適さない場面があった。

支援を工夫することで一定の動作は可能となったものの、移乗動作に時間を要することで姿勢が不安定となり、転倒等の危険が生じる場面もみられた。

正しく使用しなければ危険に繋がるため、正しい使い方を理解する事、使用の際には利用者にも協力してもらうことが必須である事、福祉用具はあくまでも補助であり、過信してはいけない事などが明らかになった。

*福祉用具の活用ではない部分における課題

利用者の身体機能の低下を予防するために、また、職員の支援スキルの向上を目指していくためには、現状の体制のままの支援では限界があると思われる。PTやSTなどといった専門スキルを持った方による利用者へのリハビリ等の実施や、職員への技術指導等が必要なのではないか。

また、職員個々が利用者を理解したうえで、共通認識を持ってチーム支援を進めていくことが大切。

5. まとめ

高齢化により利用者・職員の双方が身体的な負担を感じており、福祉用具の適切な活用が負担の軽減に繋がる事がわかった。

一方では、福祉用具の活用にも限界があり、職員が共通認識を持ってチーム支援を行う事、専門職者による直接支援の必要性や、技術指導を受けることにより職員のスキルアップを図る事、またそのために支援体制の見直しを求めていく事も必要ではないか、と考える。

障がい者入所施設における 利用者の高齢化と支援方法の検討

—福祉用具の試験導入を通して—

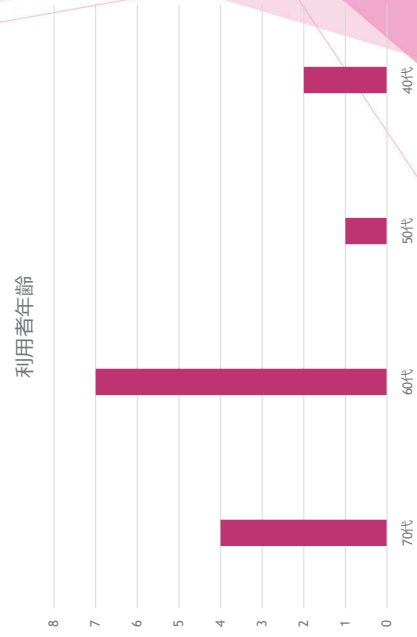
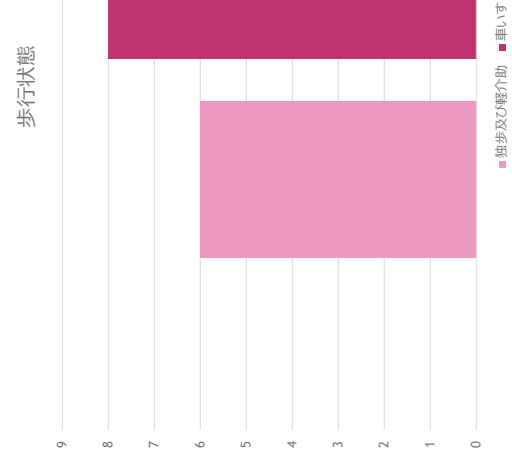
発表者 長門美香 共同研究者 浅井里美 秦紀芽佳

祥福園 はばたきユニット

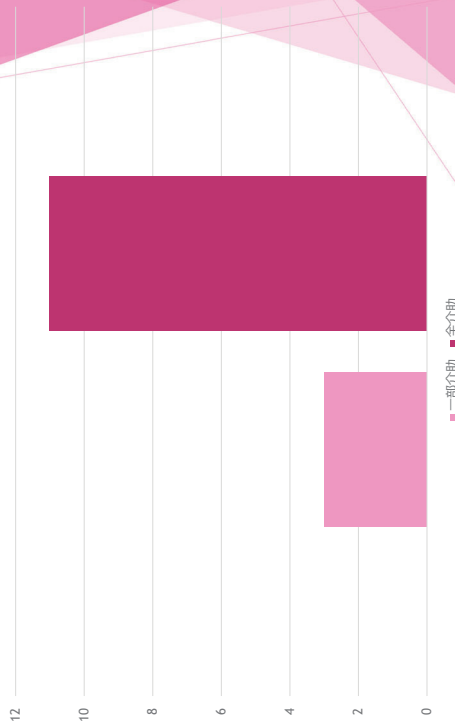
研究背景

- ・祥福園開設から約30年。
当初から今まで祥福園で生活する利用者も
- ・長期入所により高齢期を迎える利用者の増加

- ・はばたき棟
利用者14名 (男性4名/女性10名)
職員 13名 (男性3名/女性10名)



排泄



祥福園 はばたきユニット

- ・利用者の高齢化が進行し、身体機能が低下
→ **介助量が増加**
- ・施設環境が高齢者介護に適していない為、
職員の人力に頼った介助。
職員個々の体格や力の強さにバラつき
→ **利用者の負担が大きく変動**

【障がい者支援と高齢者支援】

- ・「障がい者入所施設」障害者総合支援法

①目的

能力の発揮・拡大⇒社会参加・自立
(就労、地域生活)

②支援内容

生活支援 (食事・入浴・排泄等)
意思決定支援・権利擁護
就労・創作・社会活動への支援
⇒ **成長や変化を前提とした関わり**

「高齢者入所施設」介護保険法

①目的

機能の維持・悪化防止、安全・安心・尊厳
⇒生活の継続、終末期支援

②支援内容

身体介護 (移乗・排泄・入浴介助)
医療的管理・服薬管理
認知症ケア

参考URL/障がい者施設の高齢者施設：知っておくべき3つの重要は違い！あなたに合うのはどちら？ - 障がい者福祉サービス「桜のケアセンター」

問題意識

- ・両制度の狭間に位置し、支援方法等の明確な線引きがなく混乱が生じる。



利用者、職員の身体的負担

福祉用具の使用により負担の軽減はできないか？

- ・両者において明確な違いがある。

- ・利用者の高齢化や障がい特性による高齢者施設への移行の難しさ



障がい者施設において
高齢者支援をせざるを得ない

方法

簡易型移乗リフト「ささえる手」の導入



目的

- ・利用者及び職員の負担軽減に対する、福祉用具の有効性
- ・支援場面においてのこれからの課題と対策は何か？

https://youtu.be/ZW_shRk16D0?si=B6tBtCxKSQk8RlSN

評価視点

- ① 利用者の動作、表情、意欲の変化
- ② 不安や拒否の有無
- ③ 職員の関わり、支援速度

評価・成果

- ・ 導入初期は目新しさから意欲的。
- ・ 安定した立位を保ちながら移乗ができた
➡ **利用者及び職員の身体的負担の軽減**
- ・ 福祉用具の操作に不慣れな職員が対応
↓
支援に時間がかかり拒否がみられる。
- ・ 上肢機能の低下により使用が適さない

祥福園 はばたきユニット

1回目の導入時は消極的な職員がいた。
(要因) ・ 操作方法が分からない
・ 支援に時間がかかる など

2回目の導入時には消極的だった職員も
積極的に活用

➡ **デモ機を職員同士で体験**
利用者への介助量増加

課題

- ・ 正しく使用しなければ危険
- ・ 利用者の協力が必要
- ・ 補助するものであり、過信しない
↓
声掛けや正しい使い方

課題

- ・利用者の身体機能低下予防
- ・指導、練習による支援技術の向上
- ・職員理解の重要性

支援者（サポーター）の知識だけでは不十分であり危険を伴う。
正しい支援知識と技術が求められる。



PTやSTなどの専門職者による
リハビリ実施・職員への指導

- ・利用者の身体状況や障がい特性による**個別性**の理解
- ・職員間で**共通認識**を持つこと

まとめ

- ・利用者の高齢化により利用者と職員の身体的負担の増加という現状の認識
 - ・福祉用具を用いた支援により身体的負担の減少
- しかし・・・
福祉用具活用だけでは**限界**がある。

・職員間での報・連・相による連携

→ 共通認識

・専門職（PTやSTなど）の配置・指導による技術向上

支援体制の見直しや変化、職員の個別性の理解や意識変化が必要